

2024/8/8 開催 いけんひろば

～教育 DX の未来みらいを考える～

いけんのまとめ オンライン回

【オンライン】1班はん（小学生2名・中学生1名） 2

【オンライン】2班（中学生3名・高校生世代2名） 7

【オンライン】3班（高校生世代2名・社会人2名） 13

【オンライン】1班（小学生2名・中学生1名）

1. 学校で使用している端末に思うこと

〇タブレット端末等を使用して学ぶことの楽しさやメリット、困ること、不安なことを教えてください。

<学校で使用している端末>

- 学校でパソコン（Chromebook）が配られている。小学校2年生から使っていて、かなり便利だと思う。メモを取るときや、要旨を書きとくときに Google ドキュメントを使っている。文章を作るとき、紙に書くとき直すときに時間がかかるが、Google ドキュメントだと一気に消せるので楽だと思う。
- 学校でパソコン（Chromebook）が配られている。小学校4年生から使っている。発表時に資料をスライドで作成している。

<はじめて端末を使ったときはどうだったか>

- はじめて端末を使ったときは、操作に必死になった。操作が自由にできるようになった後は、楽しくて心配は全く無くなった。
- はじめて端末に触ったときは、不思議なものだと思った。デジタルドリルをするだけだと思っていた。文章を作るときに楽に消せるから、いまは端末があったほうが便利だと思う。
- 学校で配られる前から、家でパソコンを使っていた。学校でパソコンを使えると思うとワクワクした。嬉しかった。

<学校で使用しているアプリケーション>

- デジタルドリルを使っている。使っているデジタルドリルでは、国語、算数、英語、社会、理科の5教科を勉強できる。学習は段階ごとに分かれていて、単元の最後にはまとめ問題がある。学習するとコインがもらえたり、キャラクターを育てたり、トロフィーがもらえたりする。分からないところがあると、すぐに「こうすればいい」という画面に移動できる。使いやすいと思う。
 - デジタルドリルは良いと思う。やっていくごとにランクアップするのですごくやりたい人もいる。
- 小学生のとき担任の先生が ICT に強い人材で、「ロイロノート SCHOOL」（株式会社LoiLo製品）というアプリケーションを使っていた。すごく楽しくて、そのアプリによって大嫌いな算数を好きになった。ノートの共有機能を使って、みんなでお絵描きして遊んだり、学級系のメンバーでコントを一緒に書いたりした。共同作業をできることが楽しかった。

- 「SKYMENU」(Sky株式会社製品)という似たアプリケーションがある。お絵描きしたり、文字を打ったり、おはじきみたいな絵を使った算数の計算をしたりできる。先生が送ってきたものを使った学習や、先生への提出もできる。
- 「ミライシード」(株式会社ベネッセコーポレーション製品)がある。ドリルなどが一体化している。学校によって違うアプリケーションを使っていると思う。「ロイロノート SCHOOL」は使ったことはないが聞いたことはある。
- 「ロイロノート SCHOOL」では、解き方をどんな線や文字で表現しても良い。また、手書き機能では、画面に文字を書くと自動で読み取って文字にしてくれるのでキーボードで文字が打てない人も使える。
 - 手書きは使いやすい。文字はキーボードで打てるようになるべきだと思う。自分は練習をして小学校3年生で文字がキーボードで打てるようになった。
- キーボードでの文字の打ち方はローマ字表や本で勝手に覚えた。

<紙と端末の違い>

- タブレットは軽いから良いと思う。

<ノート提出を端末ですることについてどう思うか>

- 提出するときに、先生のところまでわざわざ行かなくて良い。
- 歩かずに提出できるのは良い。歩く距離を少しでも減らしたい。
- 先生が許可していればクラスメイトのノートを見ることができる。

<もっとこうしたら良いと思うこと>

- 学校で配られているパソコンはセキュリティ対策がされていて、Wikipedia やブログなどの一部のサイトを見られない。仕方がないかなとは思っている。
- 学校で配られている端末では、学校の授業に関係がないことはブロックされていて、検索しても検索結果が出てこない。でも、夏の生き物の調べものをしたときは、勉強に関係のあることなので、検索結果が出てきた。
- 学校で配られているパソコンでは、X や TikTok は見られない。調べものをするときに、参考になりそうな投稿があっても見られないのが困る。あきらめて別のサイトを探している。あと、パソコンのカメラの画質が悪いのがいやだと思う。夏に関する写真を撮るという夏休みの宿題があったが、画質が悪いので出したいと思わなかった。

2. 対面で取り組む活動に思うこと

○学校や放課後、休日に、対面で取り組む活動のどのようなところを大事だと感じるか教えてください。

- 自分以外の人と実際に会うことによって、社会で出て話すことに慣れると思う。一方で、オンラインのメリットは、距離に関係なく話せることだと思う。対面で話すか、チャットで話すかなら、圧倒的にチャットの方が得意。自分は人の目を見て話すのが苦手なので、相手の表情を伺わなくて良いチャットは楽だと思う。
- 意見に賛成。
- 実際に会って話すと表情が見えるので「この話は好きなんだ」「あんまり好きじゃないかな」がよく分かる。文章だと分からない。

<学校は、実際に行くのが大切だと思うか、オンラインでも良いと思うか>

- どちらかというと、自分はオンラインが良いと思う。ただ、実際に行った方が、友達ができたり、友達とおしゃべりしたり、楽しいことがあるから対面の方が良いと思う。学校に行くからこそ、休み時間に友達と遊べたり、お弁当と一緒に食べられたりする。そういうのは無くしてはいけないと思う。オンライン授業は週2回程度ならよいと思う。
- 自分はオンライン派。病気で休んでいる子も授業を受けられる。
- 外で遊ばない人は、学校に行かないと運動不足になって筋力が落ちてしまう。でも、学校に行かなければ、いじめが減って不登校やひきこもりは少なくなるかもしれない。その両立ができればよいと思う。学習は相手の表情が分かる方が学習しやすい。特に英語では、発音するときの口元の動きを見たい。オンラインだと動画がかくかくして口元の動きが分かりづらい。

<オンラインでも友だちはできると思うか>

- 例えば、休日の部活後に「一緒にごはん食べに行く？」という流れになるのは対面だけだと思う。対面のそういう部分がよいと思う。
- 任意参加の対面イベントに参加して友だちを作っている。
- 対面でおしゃべりできるのが楽しいと思う。

3. 周囲からのサポートのあり方について思うこと

○自分らしく学ぶためには、先生や友人、アプリなどから、どのようなサポートがあったらよいか、教えてください。

<勉強に困ったとき周りが助けてくれていること・勉強が分からないときどうしているか>

- 勉強が分からないとき、学校では先生に聞いて、家では保護者に聞いている。保護者に教えてもらう方が分かりやすいと思う。
- 先生がいたほうが分からないときに相談できるから良いと思う。

<自分らしく学ぶために「こうなったら良いな」という理想>

- 「ほかの人の特徴を知ろう」授業があったら面白い。「こういうことが好きだからこう活かせれば良いのではないか」となったら面白いと思う。
- 分からないときに、先生を呼ぶボタンがあったら嬉しい。先生が駆けつけてくれてすぐ解決してくれたら良い。
 - バスみたいに各席に先生を呼ぶボタンが置いてあったら良いと思う。
- すぐに検索できると楽だと思う。

<いま勉強は好きか>

- 好き。1学期に水のかさの単位の勉強をした。各班にマスが用意されて自分たちで自由に水を計ったのが楽しかった。
- 好き。いろんなことが知れるから。
- 勉強はとにかくめんどくさいからやりたくなくなる。数学で意味が分からない数式が出てくる。やりたい気分じゃないのに宿題が出ているから「やらなくてはいけない」となる。

<勉強をもっと好きになるにはどうしたらよいか>

- 「自由進度学習」を行っている学校についてニュースで知った。45分間マイペースで勉強できると知った。うらやましくて、自分の学校でも行ってほしいと思った。
- 得意なことが早く進む人と、ゆっくり進む人がいるので、マイペースに進められたら良いと思う。フリースクールではマイペースに進められると聞いたことがある。
- 自分が分からないことがあったとき、授業だと進んでしまうが、マイペースに勉強できるなら分からないことがあったとき止まれる。
- 早く学習が終わったときに何をすればよいか分からない。自分の学校では、早く終わった人がミニ先生として教えている。
 - ミニ先生については、自分の学校でもやったことがある。

4. 未来の教育について思うこと

○デジタル技術によって未来の教育はとなるとよいか。例えば、自分が大人になった時に、子どもたちが受

ける^{みらい}未来の教育はどうなっていてほしいかなど、^{みな}皆さんの考えや^{ねが}願いを教えてください。

- 教育を受けられない人が0になってほしい。自分の小学校には外国から来た生徒^{せいと}がいる。外国人をもっと受け入れたら良いと思う。
- 対面や紙もありつつ、オンラインやタブレットやデジタルドリルもありつつという形が一番良いと思う。今より少しデジタルが増えるイメージだけど、デジタルが増えすぎると^{こま}困る。
- デジタルが増えすぎると^{しりよく}視力が下がる。
- 意見に^{さんせい}賛成。
- 10万円を支払^{しはら}って学校用の端末^{たんまつ}を買ったが、授業^{じゅぎょう}で全然使わないことがある。未来ではデジタルをもっと活用してほしい。
- 自分の住んでいる地域^{ちいま}では端末^{たんまつ}は^{むりょう}無料で配られた。
- 学校のテストはアナログで、先生が手書きした問題を印刷^{いんさつ}して配っている。デジタルになると良いと思う。
 - 自分の学校でもテストは紙で配られている。

<AIの先生についてどう思うか>

- いやだ。AIは先生じゃないと思う。
- AIにすれば先生の手間^なは無くなる。自分の学校では、理科や社会^{たんにん}は担任ではない先生が教えている。最近^{さいきん}は先生やバスの運転手^{ふんそく}が不足しているらしい。
- AIには^{まか}任せられない職業^{しよくぎょう}があると思う。先生にAIを任せたら、機械^{まか}っぽい変な答え^{かかい}が出てしまうかもしれないと思う。
- 教師^{きょうし}は給料^{きゅうりょう}が安いけど深夜まで働^{はたら}かないといけなくて大変^{たいへん}らしいからAIのほうが良いかもしれない。でも、AIは^{どうとく}道徳^{じゆぎょう}の授業はできないから先生がいたほうが良いと思う。数学など答えがひとつの教科なら大丈夫^{だいじょうぶ}だと思う。
- 先生なら計算に時間や手間がかかる問題でもAIならすぐに答えを出せる。

以上

【オンライン】2班（中学生3名・高校生世代2名）

1. 学校で使用している端末に思うこと

○タブレット端末等を使用して学ぶことの楽しさやメリット、困ること、不安なことを教えてください。

<楽しさやメリットについて>

- タブレットを活用すると映像や動画が撮影できて便利。
- 辞書を引かなくてもネットでキーワード検索すれば情報が得られるので便利。
- 「ロイロノート SCHOOL」を学校で活用している。紙を使わないので、リュックがかさばらないのが利点だと思う。ただ、未だに紙を配布する先生もいるので、情報が混在して課題を提出し忘れることがある。紙とタブレットのどちらを使うかは先生により異なるので、情報の管理方法に差が生まれてしまう。
- QRコードを読み込んでフラッシュカードのように単語練習ができるのが便利だと思う。
- 文を音読する機能を活用することで勉強がしやすくなる。
- 教科書のQRコードを読み込んで、タブレット等でよく勉強している。パソコン等を使うとプレゼンテーションを簡単に作れるのが良い。
- 小学生は持ち運ぶ教科書が沢山ありとても重いのが、パソコン一枚だけだったらとても軽い。重さや移動の点で小学生は教科書の持ち運びが大変なので、PC一枚で済むのは革命的だと思う。
- 災害時にパソコンが一台あれば、「Google Classroom」（Google 合同会社製品）を活用してスマートフォンを持っていない人でも情報を共有することができて便利だと思う。
- 長期休み中もタブレットを活用して先生とコミュニケーションを取れたらよいと思う。長期休み中も連絡できると、塾に行っていない人でも先生に質問しやすくなる環境ができると思う。オンラインでリアルタイムで先生に質問できると良い。
- 調べて色々な情報を知ることができるのが良いと思う。自分の年齢が下のきょうだいは、先生が言ったことが絶対だと思っている。先生が言わなかったことはやっちゃいけないというような感じで驚いた。インターネットで調べることによって、自分の気になることを追求できる環境が現代にはあると思っている。教科書という限られた範囲でなく、膨大な情報量に小学生でもアクセスできるのはすごいと思う。宿題だけでなく、他にも色々なことを追求できるのはオンラインの大きなメリットだと思っている。

<困ることやデメリットについて>

- 学校から帰ってきた後にゲームもできるが、やりすぎると勉強に差支えができそう。
- 学校で使っている学習管理サイトがすごく重くて困っている。提出だけで二分かかるので、もっと動きが早くなればよいと思う。
- 情報の格差の問題があり、情報についていけない人も一定数いると思う。情報についていけない人に合わせていくことや擦り合わせが重要だと思う。
- 情報についていけない人は突き放されている感覚になり、不登校や引きこもりになってしまうと思う。
- スマートフォンを忘れてしまった日があったときに、授業では基本オンラインで進むので何もできなかった。友達とのコミュニケーションも BeReal や Instagram 等のオンラインツールを活用することが多いのでスマートフォンがないと何もできなかった。電車に乗るときも今は紙の地図がないのでスマートフォンでのマップがないと大変だった。QR コードを見せる必要があったときにスマートフォンがなくて困ったこともあった。オンラインが当たり前になりすぎて、それがないとなにもできないように思う。
- 通信高校にいるとき、タブレットがないと何もできなかった。普段のコミュニケーションも LINE を使うので、対面のときはみんな静か。静かすぎて困るという風に先生が言っていたこともあった。
- 図書館で行われた講演会で「ゲーム依存症に気を付けて」と注意喚起があった。ゲーム依存症になると前頭前野の機能が低下して衝動や感情等のコントロールが難しくなってしまうことを学んだ。中国が 2021 年に設けた、金土日の午後 8 時から午後 9 時の 1 時間の間だけしかオンラインゲームを使えないという内容の規制は、こどもがゲーム依存にならなくて良いと思った。家庭のルールに踏み込むのは行き過ぎかもしれないが、こどもを守る為には思い切って対策をしているのが良いと思った。
- 中国のゲーム規制で小学生の多くがうつ病になったという記事を見た。急な変化に対応することは難しいことだと思う。急な変化に対する対策としては、徐々にゲームできる時間を短くしていくように段階的導入を実施するのが良いと思う。
- 30 分使ったら画面に「あと 3 分でシャットダウンします」といった注意喚起の表示をすることも、ゲーム依存も防げて、こどもの目の負担を軽減することもできると思った。
- 自分の学校では授業中にゲームをすることが問題視されている。授業中にゲームをしていたことで、全体的に成績が 20% 下がったというデータもある。学校の iPad に娯楽用のゲームは本当に必要なのかと疑問に思う。

- 授業中にゲームを行うことの対応策としては、現状だと先生の厳重注意と生徒指導がされる程度で根本的な解決はされていない。学生は娯楽に走ってしまうので、授業用の iPad に娯楽用のゲームを組み込む必要はないと思う。
- 授業中にゲームをやっている人が多くて問題になっていた。対策としては、データの容量に制限をかけることが良いと思う。自分の学校では、生徒が勝手にゲームのダウンロードをしたり、壁紙を勝手に変更したりしてデータ容量がなくなっても、それはあくまで自己責任として捉えられている。ただ、容量が減ると授業に必要なアプリが使えないなどの支障が出てしまう。不必要なアプリは容量を消費するため、本当に必要最低限のアプリのみを入れるのが良い。授業で使ったことがないアプリ等は削除すると良いと思う。
- 最近気になっていることがある。学校の帰りの時間で「Google Classroom」を確認する時間に先生を見る人がほぼいなくて、先生はいらないのではと思ってしまった。タブレットがもはや先生になっていて、先生の役割とはなんだろうと考えさせられた。自分は人と人とのコミュニケーションが好きなので、学校にわざわざ通っている意味を感じられず、AI とただおしゃべりをする感覚でつまらないなと思ってしまう。今日まで勉強合宿に行っていた。全くタブレットを使わない3日間の生活だったが、すごく楽しくてこれが学校だったら最高だと思った。もはやタブレット活用はしなくても良いのではないかと思う。使う場合は使う時間を管理した方が良い。
- 学校のセキュリティソフトの関係で、ブロックされるサイトがある。通報サイトで通報すると、サイトがブロックされていく。みんなが通報するとブロックされるサイトが増えていき、最終的には使えなくなる。すぐにブロックなくてよいかもしれないと思うことがある。授業中は使えないけど夜は使えるなどのように使える時間を分けられたら良い。
- タブレットでゲームを使うと制限がより厳しくなっていく仕組みがある。制限が厳しくなっていくので、いざ調べものをやるときにブロックされてしまうなど、そもそも開けるサイトが少なくなってしまうのが懸念。

○学校でどのような端末をどういふときに使っている？

- 社会の授業の時の調べ学習で使っている。
- 国語の単語調べのときに使っている。
- 「ミライシード」のワークを解くときに使っている。
- タブレットは毎回授業の時に使っている。
- 先生に指示されたときに使っている。

- 「ロイノート SCHOOL」を使っている。科目によっては資料がアプリから送られてくる。宿題の提出もアプリから行うので、かなり頻繁に使っている。
- 通信制高校に通っているので宿題は基本的にタブレットやパソコンで行っている。毎日のように使っている。
- 「Google Classroom」を課題提出時や、授業で使っている。担任の先生や日直が朝の学活でお知らせをするのではなく、「Google Classroom」を見るのが朝の学活になっている。スマートフォンやタブレットを持っていないとそのツールを見るができないので、タブレットは持参必須。夏休みの課題等は夏休み前に言われるのではなく夏休み中に、「Google Classroom」に情報が掲載されている。
- 「ロイノート SCHOOL」を使っている。授業でスライドを作るときに使っている。最近だと提出する機能を使ってゲームをしている。

2. 対面で取り組む活動に思うこと

○学校や放課後、休日に、対面で取り組む活動のどのようなところを大事だと感じるか教えてください。

- 吹奏楽部に入っている。家で練習すると騒音問題につながるので、学校の設備を使って練習することが大事。金管楽器は音が大きすぎるので学校の設備じゃないと練習することが難しい。
- 地域の防災青年団に入っている。地震体験などは設備がないとできなので対面でやることは大事だと思う。
- 市の防災センターで行われているような避難訓練は対面でやった方がいい。
- 人と対面で話せる能力をつけることも大事だと思う。今は LINE での会話がが多いが、対面で話すことが話す能力をつけるために大事だと思う。
- 福祉イベントのボランティアで年配の人と何気ない会話をしたときに、色々な価値観を知ることができた。オンライン上での会話は何かの目的やテーマに対して話すことが多い。対面だと目的やテーマに囚われず何気ない会話ができる。普段関わる機会の少ない年上の人と話すことで、協調性も身につくのではないかと思う。
- 給食の時間に対面で話すとコミュニケーション能力がついて良いと思う。
- コロナ禍でオンライン化が進んで人との接し方がわからなくなった。どうやったら自然にみんなと話せるのかと自問自答していた。コロナ禍前を振り返って何気ない会話が楽しかったと感じた。LINE などの SNS で

は、メンバーを絞ってコミュニケーションができるため、同じコミュニティの中で分裂して、一定の人としかコミュニケーションをとれなくなると思う。その点がオンラインのデメリットであり、対面の良さでもあると思う。

- 学校で「相手に勘違いされないように発言には気を付けて」と注意を受けたことがある。対面だと相手が何を言いたいかわかるが、LINEの文面からでは相手がどういう気持ちで送っているのか分からないので、対面だと自分の気持ちを一番出せるように感じる。
- 対面の場合、3次元の人が話すので表情や相槌などの変化をみることができる。オンラインだと表情や相槌等の反応を感じにくい。
- グループLINEでハブられたことがある。思考が合う人とは話したくないというフィルタリングがオンラインの方があると思う。対面だと気の合わない人とも関わる機会があるが、オンラインだとそのような機会が少ないように思う。
- 情報の伝達が早いことが対面のメリットとしてあると思う。デメリットは根も葉もないうわさが流れることだと思う。

3. 未来の教育について思うこと

○デジタル技術によって未来の教育はどうなるとよいか。例えば、自分が大人になった時に、子どもたちが受ける未来の教育はどうなっていてほしいかなど、皆さんの考えや願いを教えてください。

- 先生は、生徒が塾に行っていて既に授業の内容を理解しているという前提で授業を進めている。自分は塾に行っていないので、成績が悪くなってしまったと思う。タブレットを活用して通信制大学の授業が無料で見られる。小学生や中学生の回を録画してみると、塾に行っていないで授業についていけない人でもわかるようになってくると思う。また、授業が分からないから塾に行くということが減り教育費が安くなるのではなか。高校版もあつたらいいと思う。そして、区から貸与されているタブレットでいつでも観られるようになったら、不登校の子も授業が一度で理解出来なかった子も、無理なく好きな時間に授業を聴けて良いと思う。
- 将来、地元の大学でオンラインで他の大学の授業が受けられるようになったら都市部に若者が行ってしまうことを止められるんじゃないかと思う。
- 日本と海外の教育の違いについて興味を持っている。海外は個人の成長に重きを置いているのに対して日本はみんな並行で成長していくイメージがある。人それぞれ出来具合は違うので、個人の能力ごとに異

なった教育ができると良い。狭く深くタイプ、浅く広くタイプなど個人の特徴に合わせた柔軟な教育ができたら良いと思う。

- 教師が AI という設定のドラマを見た。DX、IoT が進むと教師が AI になると思うが、教師は AI になるべきではないと思う。表情もわからないし、AI は教師に不向きだと思う。
- 小学 3 年生まで海外のインターナショナルスクールに通っていた。その際には、英語が得意な人は発展レベルをやったり、数学が苦手な人は基礎レベルの問題を解いたり、生徒のレベルごとに授業を行っていた。その反面、日本の学校は全員が同じ授業を受けて、同じ問題集を解いていた。未来の教育ではレベルに合わせて先生や授業の内容を変えると良いと思う。オンラインも対面もうまく活用することが大切だと思う。
- 小中学校に自習室があると良いと思う。どうしても集中できないときにすぐに話したり聞けたりする人が欲しい。生徒が休日にも行けるような和気あいあいの団らんスペースがあると良いと思う。

以上

【オンライン】3班（高校生世代2名・社会人2名）

1. 学校で使用している端末に思うこと

○タブレット端末等を使用して学ぶことの楽しさやメリット、困ること、不安なことを教えてください。

- 私はタブレット型パソコンを学校で使っている。使いやすいのは良いが、重量があるため学校に持っていくのが大変である。教科書4～5冊分くらいの重さがある。
- 私は端末を使ったことはない。電車とかで見る人たちは端末を入れるケースも持っているイメージ。ケースも込みで配られているのか？ケースが大きいと、扱いにくい印象がある。
 - ケースは各自で買う方式であり、配布はされていない。
 - 私の場合もケースは各自で買う方式である。しかし妹の学校ではケースが配布されていた。決まったケースがあるのは「いいな」と思ったが、全員が同じケースを使うため個性を出せず配られたものを使うしかないのがデメリットだと思う。しかし、妹の学校で配られていたのは高級なケースだったため、「高級なものが無料で配られるのはいいな」とも思った。メリットとデメリット両方あると思う。
- 自分は端末の利用経験がないが、学校での端末の利用に関して「すごいな」と思ったことを話したい。自分は小学校を卒業して10年目。数年前に児童クラブで働いていた時に「すごいな」と思ったのが、小学生がみんなタブレットを持っており、楽しそうに宿題を先生に送信していた。自分の時はタブレットを使った勉強などはしていなかったため、時代の変化を感じるとともに、こんなにも短い年数でタブレットの利用が普及していることに驚いた。
- 自分は端末の利用経験がないが、知り合いの教員にタブレットを活用している人がいる。各生徒の課題の提出状況や進行状況が休日でもチェックできるようになるため、そういうことが気になるタイプの先生やフォローしたい生徒がいる場合などは良いと思った。

○端末の利用にあたって困っていることはあるか

（例：液晶は割れないか、充電に困らないか、Wi-fiは遅くないか など）

- 去年から学校が保証に加入するようになったため、画面が割れても無料で直せるようになったが、それまでは自己負担だった。また、タブレットは教科書よりは軽いケースが重いこともあって「持ち運ぶのが邪魔」と言っている人がいる。持ち運びの負担を考えると学校で充電したいが、全員が学校で充電すると学校側

が困るため禁止されている。なお、自分は私立の学校に通っている。公立の学校に通っている妹に困った様子はない。

- Wi-Fiについて困ることはない。回線は結構良いが、生徒が一斉に使ってアクセスが集中した際にインターネットの環境が悪化したことがあった。
- 自分の学校でも、保証に入りたい人は入れるようになったため、前よりも心配は少なくなった。学校で充電するのは禁止されており、「100%充電してきて間に合わせてください」と言われている。放課後に自分で使いたい時などは不便。Wi-Fiは校舎の端のほうだと電波が悪く、授業の時も教室を変えたりしている。
- 自分は田舎に住んでいるが、児童クラブで働いていた時にこどもたちから「学校で唯一 Wi-Fi があるのが音楽室」という話を聞いて衝撃を受けた。

2. 対面で取り組む活動に思うこと

○学校や放課後、休日に、対面で取り組む活動のどのようなところを大事だと感じるか教えてください。

- 学校ではないがリモートワークをしていて感じたことを話す。グループワークのような複数人で取り組む活動は学校でも沢山あると思うが、仕事でも同じようにグループで行う活動は対面のほうが効率的かと思った。また、雑談できるのが対面の強さかなと思う。
- コロナ禍の際は家庭にいてタブレットを通じて授業を受けたが、画面が近いと目が疲れる。対面の授業で使うホワイトボードや黒板は目からの距離も離れているため、タブレットを見ているよりも目が疲れない。また、対面のほうが授業内容が頭に入りやすいと思う。
 - 目の疲れは自分も気になる。コロナ禍の後にリモートで話す機会が増えたが視力が悪くなったと感じる。今のこどもたちは外で遊ぶよりも「タブレットを早くいじりたい」と考える子が結構いて、外遊びが敬遠されてしまっているのではないかと感じた。外遊びは大事だと思う。自分が小学生だった時は結構みんなで外遊びをしていた。当時は携帯ゲーム機などはあってみんなで遊んでいたが、今はこどもが遊ぶ声が全然聞こえない。こどもが遊ぶ公園なども老朽化で奪われている。こども家庭庁も外遊びを推進していると思うので、そういったところを後押ししても良いのではないかと個人的には思う。
- コロナ禍でオンライン授業を受けていて思ったこととして、オンラインの場合は挙手して順番に発言することとなるため、ややテンポが遅くてもどかしさを感じる。もうちょっとスムーズに早く授業が進んだら嬉しい。対面の時が誰かが手を挙げて発言したら、そこから話が派生していった。

○体育の授業は対面か？また、対面が良い科目/そうでない科目はあるか。

- 美術や音楽、家庭科などは対面のほうが良いと思っている。タブレットを通して見るよりも細かい部分を先生に指示してもらえたり、楽器の音をちゃんと聞いてもらえたりする。
- 体育はコロナ禍の時のみオンラインで他の時は対面だった。体育のオンラインの授業は筋トレなど家でできることだったが、直接見てもらわないと指導を受けるのは厳しいと思った。そのほか、健康維持のやり方動画などが学校で配信された。解説を聞いたりポイントを学んだりすることはオンラインでもできるが、指導は対面でないと厳しい。

3. 周囲からのサポートのあり方について思うこと

○自分らしく学ぶためには、先生や友人、アプリなどから、どのようなサポートがあったらよいか、教えてください。

- 私自身が周囲から教育関係で受けて良かったと思うサポートは、博物館や水族館への色々な導線を両親や学校のチラシ、先生から作ってもらっていたこと。それによって美術などに触れる機会が多かったため、そういったサポートを受けられて良かったと思っている。
- 自分は不登校を経験したことがある。もうちょっとタブレットが早く普及していれば良かったという思いがある。不登校支援については今でも考えているが、デジタルは不登校支援にとって最大のツールだと思う。遠隔授業などができたらすごく良いのになと個人的には思う。当時ありがたかったのが、タブレットなどは配布されていなかったが当時の先生が大変良い先生で「スマホに Google Classroom を入れて」と言われ、「何か分からないことがあったら、いつでも聞いてくれて良いから」と言ってくれた。デジタルの活用が進めば、不登校支援が進むのではないかと思った。
- 私がタブレットで勉強するのは英語中心である。タブレットで英語の勉強はできているが、他の教科の勉強が難しいと思った。
- 小中高で学ぶことがある程度決まっているのであれば、単元・教科ごとに成績に反映されない確認テストのようなものがあると、学校に行かなくても「今みんながこんなことをやっていて、ここまで理解できていればいいんだ」というのがある程度は分かるようになると思う。
- 最近アプリを使って学校の定期テストの成績を見ることができるようになった。全部の成績を一括で見ることができるアプリが欲しい。紙でもらった成績表・テストの結果などは紛失してしまうこともある。自分は現在

高校生で大学進学に必要な証明書などがあるため、個人に関する情報がまとまっているアプリがあると良いと思った。

- タブレットを使って悩みなどを打ち明けられるチャット相談などがあれば良い。先生方の負担になるかもしれないが、勉強で分からないことなどをチャットで聞ける仕組みがあると嬉しい。学生時代、自分は先生に直接聞きに行くことができなかった。個人的にはチャットであれば「聞いてみよう」と思えるため、そういった仕組みがあれば良いなと思った。
- チャットの相手としては、キャラクターのほうが良いかもしれない。
- 自分自身も使うことがあるが、ChatGPT などがあるが必ずしも正しい回答をくれる訳ではない。なので、チャットで悩みや不安を相談できるアプリをデジタル庁で作ってはどうかと思う。文部科学省などと共同開発して試験的に運用してみてはどうかと個人的には思う。
- 小中学生の質問に専門家が答えるラジオ番組が夏休みに放送されているが、その番組のようにチャットで気軽に専門家へ質問できる機会があると思う。学校の内容を飛び越えてしまうかもしれないが、自分らしい学びを深めることにもつながると思う。ChatGPT は回答が間違っている可能性があるため、専門家に聞くことができたほうが良いと思った。

4. 未来の教育について思うこと

○デジタル技術によって未来の教育はとなるとよいか。例えば、自分が大人になった時に、子どもたちが受ける未来の教育はどうなっていてほしいかなど、皆さんの考えや願いを教えてください。

- 今でもタブレットを使って日本史の授業で遺跡などを見ることができたりするが、実際に見るとタブレットで見るとではサイズ感なども違うと思うので、それを博物館に行かなくてもデジタル技術によって肌で感じることができれば良いと思った。実際に体感できるほうが頭にも入るし、さらに興味が深まると思った。見るだけでなく触れたりするのも良い。
- 受験や勉強には経済的格差や地域的格差があると思う。そういった格差を解消するためにタブレットなどのデジタルが活用されればと思う。
- デジタル庁の教育データ活用ロードマップでは教育のデジタル化のミッションとして「誰もが、いつでもどこからでも、誰とでも、自分らしく学べる社会」が掲げられており、自分としてもそれが目指すべき姿だと思った。今後改定するとしてもブレないで欲しい。デジタルを使っている学校もあると思うが、海外の学校など今までは交流が難しかった人と交流できるようになるなど、デジタルの力は無限だと思う。自分も海外の人

(主に同年代)と交流できれば良かったなと思うし、交流することで海外への視野を広げることができるのではないかと考えている。

- 学び直すことについて考えたら、高校の時に理系・文系が分かれていたり、選択授業の人数制限があったりしたため、どうやっても受けられない授業があった。デジタル技術を活用することで、どういう状況でも授業が受けられるようになると良いなと思った。
- 何度も不登校の話をしているが、授業についていけないという不安から教室に入れなかったりするので、そういった学びの格差をデジタルによって是正できれば良いのではないかと考えている。不登校になったとしても学び続けられるような環境をデジタルで作ることが重要だと思っている。
- 家で学ぶために必要なものは、Wi-Fi などだと思う。タブレットは配布されると思うので、そのタブレットを使って、教室で先生が行っている授業をリアルタイムで受けることができれば不登校になったとしても学びについていけなくなるという心配はなくなるのではないかとと思う。
- 学校の先生がオーバーワークだと思われるため、先生をサポートにデジタル技術が活用されることを期待している。宿題の採点や課題作成などは時間外に対応している先生が多いと思われる。そういったことにデジタルを活用することによって先生に余裕が生まれ、こどもと向き合う時間が増える。
 - 自分も上記の意見に賛成。小学校時代の先生と卒業後に文通していた時、自分が小学校の教員になりたいと思っていることを伝えたら「小学校の教員という仕事には世間一般で言われるようなブラックな一面もあります」と言われた。SNS などでも先生の残業などが話題になっているが、それを解決するツールとしてデジタルや AI を活用できればと思う。例えば、お便りを使う時にも AI を使うなど。それによって先生たちの負担を減らし、こどもたちと一緒にいる時間が増えればと思う。
- 「ブラック校則（行き過ぎている校則）」がニュースなどで取り上げられており、そういったものはなくしたほうが良いと思っている一方、ある程度の規律はあったほうが良いと考えている。しかし学校で身だしなみ検査が行われる際にチェックする先生によって判断基準が違う。そのため、AI などの技術によって平等な校則や身だしなみ検査が行われ、公平性が保たれると良いなと思った。
- 不適切な校則に関連して、大学入試などで個性を求められるのに高校では個性を出すことは好ましくないとされるので、そこはどうかと思った。
- 先生側も生徒側もその世界しか知らないのが校則がエスカレートするのだと思う。校則のアーカイブ化をして他の学校の校則を知ることができると、自分の学校の校則を客観的に見ることができるので良いと思う。そういった資料づくりの面でもデジタルを活用して欲しいと思った。

- 大学入試とかもデジタルでできたら良いだろうと思う。不正があるかもしれないが。特に地方から都会まで受験をしに行くには交通費などのお金がかかる。デジタルで受験ができれば、全員には言えないが、ある程度開かれた入試制度が実現できるのではないと思う。現実的ではないかもしれないが。海外ではオンラインの大学があり、そういったこともできたら良いと思う。
- 地方では過疎化が進んでおり、色々な学校が統廃合されている。自分の通っていた小学校も無くなった。そういった状況の地域では、小規模な学校の生徒が大規模な学校の生徒とデジタルでつながることができると良いと思う。小規模の学校だと、社会性が身につかない、同じメンバーで固定化してしまうなどの懸念がある。そのため、大規模な学校の生徒と一緒に学ぶことは小規模な学校の生徒にとってメリットがあると思う。
- 学校が統廃合されると通学時間が長くなることについては、自分自身は経験していないが、将来必ずそういった問題は出てくると思う。他の人と話していてもみんなが通学時間が長くなることを心配している。今すぐに解決策は出てこないが、なるべく保護者の負担を減らせるように自動運転のバスなどを使ったり、「〇〇学校サテライトオフィス」のようなものを作って週に何日かは本校ではなくサテライトオフィスなどを使ったりする方法もあると思う。

〇デジタルの発展によって「こうなったら嫌だな」と思うものはあるか。

- 生成 AI を使ったものが主流になりすぎて一次資料にあたれないような状況にはなって欲しくない。もともと何が正しかったのかという点が揺らいでしまう。生成 AI の使い方はすごく気を付けて欲しいと思う。
- デジタルのメリットは沢山あると思うが、自分としてデジタルが進歩したとしても「体験的な学び」、例えば何気ない友達との会話、先生との直接の学び、文化祭、修学旅行などは大事にしたい。自分の学校では田植えをする機会があったが、苗を植え、育てて収穫する喜びはデジタルでは叶えられない。小学校の時には植物や野菜を育てる機会があると思うが、そういったことは今後も続けて行ってほしい。デジタルとリアルの共存がより一層求められていくのかと思う。
- 修学旅行や校外学習は学校ならではの活動だと思う。友達と話した時にたまたまそこにあったものは意外と覚えていたりするので、そういった体験は残してもらえればと思う。また、地域の資料館などは大人になるとなかなか訪問しないので、そういった場所を訪問する機会も残しておいて欲しい。

- 小学校の時に音楽隊の方が来て演奏してくれた。そこでみんな一緒に踊ることになり、隣の人と手をつないで踊った。手を繋ぐなどの人の温もりはデジタルでは感じられない。オンラインでのミーティングも効率は良いが、実際に人に会う経験は絶対に絶やさないほうが良いと思う。
- 全く外に出ずに家の中で全てが完結するようになるのは違うと思う。外に出たり、対面で人に会ったり何かを体験したりする機会は残して欲しいと思う。また、デジタルだと何でも数値化できてしまうため他と比べやすくなってしまう。子どもにとっては刺激が強すぎてしまい、そこに向かって一直線になりすぎたり、達成できなかった時にショックを受けすぎたりしてしまう可能性がある。他の人と比べて自分の出来が良いのか悪いのかが分かりすぎてしまうと良くないため、どの数値を見せる/見せないはちゃんと判断したほうが良いと思う。

以上